



第50号  
発行所

**関高等学校同窓会**  
岐阜県関市桜ヶ丘2-1-1  
郵便番号 501-3903  
電話 (0575) 22 - 5688  
FAX (0575) 23 - 7089

〈校訓〉  
**進取 至誠 錬磨**

### 新同窓会長挨拶



会長  
丹羽 克彦

6月9日、関高等学校平成30年度同窓会総会におきまして、同窓会会長に選任頂きました24回生の丹羽克彦と申します。よろしくお願いいたします。また、本総会におきまして、岐阜県武儀高等学校・岐阜県立関高等学校100周年実行委員会が発足しました。3年後(2021年)には100周年を控え、その責任の重さを痛感し、このような大任を未熟な私が務めてよいものかと大変心配しております。同窓会、学校関係の皆様のご支援なくしては、この務めを全うすることはできません。関高等学校同窓会全会員の皆様のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

さて、3年後に100周年を迎える関高等学校ですが、それに向け、前会長が提唱されました「関高等学校同窓会の存在意義をより明確にし、会員の皆様にとって真に必要な会にすること。組織の強化を図ること。100周年記念事業のための資金作りをすること。」を継承してまい

ります。準備委員会の段階から多くの同窓生役員の皆様にご参画頂きましたが、このたび100周年実行委員会が正式に発足し、実行委員長には鈴木良春様にご就任頂きました。鈴木委員長のもと、同窓会役員一丸となつて100周年に向けて頑張る所存です。関高等学校同窓生の皆様、現役の学生の皆様、地元関市の地域の皆様にもご協力頂き、皆様に共感され、共に喜んで頂ける100周年事業となるようお願い、尽力する次第です。

一昨年、関高等学校ホームページ内に同窓会ホームページが開設されました。ぜひともこのホームページをご覧頂き、学生時代を懐かしく思い出して頂きますとともに、現在の同窓会活動を見て頂けると幸いです。今後、少しずつではありますが、同窓会情報を発信させて頂きます。

なお、誠に恐縮なお願ひではあります。本年度は2年に一度の同窓会費納入の年に当たります。どうか同窓会費のご納入を宜しくお願いいたします。この桜ヶ丘だよりなども同窓会費にて発行を賄っております。ぜひとも、同封いたしました振込用紙にて会費をご納入頂き、同窓会活動にご協力ください。最後にになりましたが、会員皆様のお申上げ、ご隆盛とご健康をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせて頂きます。

### 関高に赴任して



学校長  
平井 学

同窓生の皆様には、ますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃から母校の教育活動にご理解とご支援、ご尽力を賜り、感謝申し上げます。

### 平成30年度同窓会総会報告

副会長 浅野欽一郎 (高29回生)

去る6月9日(土)にみの観光ホテルにおいて平成30年度関高等学校同窓会総会が開催されました。

同窓会会長、学校長、そして来賓としてご臨席いただいた尾関市長のご挨拶の後、議事に入り、29年度の事業報告、会計報告及び監査報告、新役員を選出がなされ、30年度の事業計画、予算が審議され、可決をされました。特に今回の総会は100周年実行委員会の設立とその組織、名称・愛称・テーマ・ロゴマークなどが承認され、100周年の記念事

私は、今春の定期人事異動により、御嵩町にあります東濃高校から本校へ着任し、勤務させて頂いたばかりです。平井学と申します。どうぞよろしくお願い致します。

さて、関高校は、3年後の2021年3月に満100周年を迎えます。これまでに約2万5千人の卒業生が本校を巣立ち、関市内のみならず、日本国内はもちろん、海外でも活躍されておられます。2021年秋には100周年の記念行事を行う予定であります。

また、本校は、岐阜県からスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け5年目になります。この活動を通して本校は、グローバルリーダーとなる人材の育成を図るとともに、地域の中核となるローカルな人材の育成を目標にいわゆる、「グローバル」な人材育成を推進してまいります。さらには、昨今、地域の中核となる地元の教員が少なくなり、地元出身の教員の育成も急務で

業への実質的なスタートを切る意味深い総会となりました。

また、100周年事業計画の素案も提示され、出席された役員・同窓生にとつても参画への楽しみをイメージさせる内容となつていました。これにて実行委員会が始動し、具体的な事業案として、目に見えた形になつてくることでしょう。

今回の総会は28回・29回生が当番幹事年として143人の参加者が集い、役員も含め200人弱の総会となりました。総会終了後は28回・29回生にとっては懐かしい顔に再会する懇親会・学年同窓会として大いに盛り上がりました。大島昭三先生・保井孝先生・西部直孝先生のお元氣

あるとも考えております。

この4月、岐阜県教育委員会から、関高校は来年度から単位制普通科高校になること発表されましたが、安心してください。関高校は、今までと何ら大きく変わることはありません。むしろ、進学校としてさらに進化します。難関校等を狙う生徒や、より多様化していく生徒の進路先に対応するために、選択授業を多くしたり、多くの授業で少人数指導を行ったりすることで、今まで以上に、きめ細やかな充実した指導ができるようにしてまいります。そのため、桜ヶ丘会館を含めた校舎の改修を行う必要がありますが、折しもタイムリーに近づいている100周年、その周年記念事業とコラボレーションができればうれしく思います。

最後に、各界でご活躍の同窓生の皆様、温かい目で母校、関高校を見守っていただき、今後も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

な姿を拝見でき、恩師を囲み思い出話に花が咲き、楽しい時間を過ごすことができました。また、2学年合同ということもあり、部活の先輩後輩としての交流も総会の懇親会ならではのものでした。最後に万歳三唱と校歌を斉唱し、それぞれの思いを持って散会となりました。

2021年の「関高・大百年祭」には、卒業生・在校生が母校への誇りと愛着を深め、世代を超えた交流を通して地域に貢献するミッションを結実させ、次世代にレガシーとしてつないでいくことを期待しています。そして、私たちもその一員として関われることをとても楽しみにしています。

# 活躍する同窓生

## フランス・ルノー本社

### 薫田美千瑠 (高51回生)

小学生の頃から、英語を学ぶことが大好きでした。両親がよく家に留学生を連れてきてくれて、つたない英語で会話をしたりして楽しんでいました。当時から、将来は外国で暮らしたいと思っていました。そして関高校を卒業し、上智大学外国語学部フランス語学科に入学。フランス語を選んだのは、

それが英語とともに国際的に重要な言語だったからという単純な理由です。大学では、語学の他に国際関係学、環境政治学に興味を持ち、交換留学生として派遣されたフランス・グルノーブル政治学院でもその分野の勉強に力を入れました。現地のフランス人学生や世界各国からやってくる留学生たちと共に過ごした一年間はとても刺激的でした。議論好きなどころ、一人ひとりが何事においてもしっかり意見を持っているところなど、日本を長く離れたことになかった私には新鮮でした。とはいえ、当

時は大学4年生でしたので、就職のこともずっと頭にありました。フランスにもっと残って力を伸ばしたいと思い、大学の教授に相談したところ、初めてルノー財団\*がMBA\*の奨学生を募集しているから試してみてくださいかとアドバイスをいただきました。調べてみるとそれは、一年間パリのビジネススクールに通い、フランス語でMBA取得を目指すというプログラムでした。世界数カ国の限られた大学の卒業生、あるいは社会人が対象です。外国で働きたいと思いつつも、経営に関する知識は何も

密度が濃く、全く新しい分野であり、しかもフランス語、かなり頭を悩まされました。幸い良い仲間恵まれ、皆で助け合うことで、ハードな一年を乗り越えたといえるでしょう。

実は、このプログラムの最終課題は企業研修とそれに基づく論文発表で、私はルノーの経営企画画にてインターンシップ\*することにになりました。それがルノーとの実際のなつきあいの始まりです。ご存じのように、ルノーは日産と提携関係を結んでおり(2016年より三菱自動車も加わりました)、その例は業界では稀な成功例とされています。私がインターンで初めて足を踏み入れたところは、まさにルノー・日産クロスカンパニーチームのひとつで、長期技術計画を打ち立てるといふミッションを担っていました。そこには、

私がかつて思い描いていたような、異文化の人々が英語とフランス語を駆使しながら、協力して共同ミッションに突き進んでいくという環境がありました。論文発表を終え、無事MBAのディプロム\*を取得した私は、今を逃したら二度とチャンスは巡ってこないと思い、ルノーの採用試験を受けました。しばらくして採用の通知を目にしたそのときは、まさに小さい頃からの夢が現実になった瞬間でした。

スタマー関係の仕事をしています。いずれの部門においても同僚は多国籍で、仕事内容は世界中の国々に関わります。これが刺激的でないはずがありません。これからも、常にチャレンジ精神を忘れず、謙虚かつ果敢に業務に取り組んでいきたいと思っています。

最後に、日本を離れて随分と時が経ちました。一日たりと母国のことを忘れたことはなく、故郷を想う気持ちはむしろ東京で過ごした学生時代より強くなっています。現在はフランスで家族を持ち、子育てをしています。いつか日本とフランスを結ぶような生涯の仕事を手で作りたいというのが私の新たな、かつ、密かな夢です。いつも学ぶ心を忘れず、気持ちだけはずっと好奇心に満ちた小学生のままで、今後も成長していきたいと思っています。



グローバルカスタマーセミナー参加者の集合写真(前列右から6人目)



セミナーでのプレゼンの様子(真ん中)

## プロフィール

- 1999年 関高校卒業、上智大学外国語学部入学
- 2003年 フランス・グルノーブル政治学院へ交換留学
- 2004年 上智大学卒業後、パリへ
- 2005年 パリ大学ビジネススクールにてMBA取得
- 2006年より フランス・ルノー本社勤務

なかつた私、これはチャンスだと思、さっそく応募し、運良く試験に合格することができました。ビジネススクールの勉強はそれまでに

それから早くも13年が経ちました。私はその間、広報部、経営企画部において勤務し、2015年より現在に至るまで、グローバル販売・マーケティング部門にてカ

\*ルノー財団：フランスのブローニユ・ビヤンクールに本社を置く自動車製造会社ルノーを母体とした財団。国際的リーダーを目指す学生の学資給付支援などを行っている。  
 \*MBA：Master of Business Administrationの略。経営学修士の修士課程の修了者に与えられる学位。  
 \*インターンシップ：学生が在学中に自分の専攻に関連する企業に体験入社する制度。体験就業。  
 \*ディプロム：学業修了書。卒業資格。

# カフェ・ド・ギャラリー・アダチ

代表取締役  
小森 敦也 (高53回生)

今回寄稿のご依頼を頂いた際、模範生という言葉とは正反対の学生生活を送った身としては、多少の動揺があったことは否めません。あまり将来につながるような進路をしなかった私は、いくつかの職を転々とした後にようやく現在の仕事に落ち着きましたが、高校時代から、単純な勤め人とは違う世界を見ようと必死だった姿があったことを、最近になって知己に教



ペルー 現地の仲間達と(左端が小森さん)

えられまして。どうもあの頃から私は、周囲に「カフェをやる」と宣言していたようなのです。しかし、15歳から15年の月日がたち、いまの店に携わるまでは回り道の連続でした。高校卒業後に入った大学は東京でしたが、かの地で自分の城を持



ゲイシャ種の収穫

## プロフィール

2001年 4月 岐阜県立関高等学校卒業  
東京の大学を経て複数の会社勤務を経験、のちに関市小瀬のカフェ・ド・ギャラリー・アダチに入店  
2016年 4月 代表取締役就任、現在に至る

つことは困難です。郷里を離れて就職した私でしたが、先の見えない、お金を貯めるだけの仕事に疲れて帰郷し、故郷でなんとか独り立ちしたいと思い―その時に、人生を変えるふたつの出会いがありました。ひとつが現在の仕事場である関市のカフェ「アダチ」、そしてもうひとつが東京のカフェ「パツハ」です。  
アダチという店は、運命の仕事場でした。客として店に行くたびに、一分一秒を過ごすたびに、自分が自分になるような不思議な感覚を覚えたのです。30歳を過ぎた私は、創業者に導かれるよう入店し、時を同じくして勧められた日本一のコーヒー屋と誉れ高いカフェ・パツハのトレセン\*に向かうことになりました。そこで出会ったのは、人生を一杯のコーヒーに懸けた人たちの姿でした。生き様の違う人たちの中で揉まれに揉まれ、いつの間にか自分の角がと

れていました。当時SCAJ\*の会長をしていたコーヒーの神様・田口護氏の言葉は一言一句逃さずにメモを取り、いまでもそれが自身の生きる上で大きな指針となっています。その後、アメリカ西海岸のコーヒー視察を経て、田口氏の婉曲な勧めを得て受験したCQI\*のQグレーダー\*試験に合格し、海外の農園主との直接的な繋がりができ、現地で農園を視察したり、コーヒー豆収穫に身を投じたり、忙しい日々を過ごしています。昨年は、ペルー奥地のアマゾンで新種のコーヒー豆の収穫に立ち会う機会を得ました。

\*カフェ・パツハのトレセン：パツハコーヒーが設立した、コーヒーに関するさまざまな実習やセミナーを行う施設。  
\*SCAJ：日本スペシャルティコーヒー協会。1987年、おいしいコーヒーの普及と啓蒙を目的に「全日本グルメコーヒー協会」として発足、2003年、現名称となる。  
\*CQI：コーヒー品質協会。コーヒーの品質とコーヒー生産者の生活改善を目的とし、全世界規模で活動している。  
\*Qグレーダー：Licensed Grader。CQIが、SCAA(米国スペシャルティコーヒー協会)が定めた基準・手順に則ってコーヒーの評価ができる技能者を指す。

# 第12回 関高OB 美術展

- ◇開催日時 10月10日(水)～10月14日(日)  
午前10時～午後5時  
※最終日は午後4時まで。  
※10月10日は午前9時30分から  
開場式を行います。
- ◇作品部門 絵画、書、写真、陶芸、デザイン、  
刀剣、能面、ステンドグラス
- ◇場 所 関市文化会館  
桜本町2丁目 ☎0575-23-2525
- ◇照会先 事務局・兼松 ☎0575-23-0310

